

令和2年度第1回社会教育委員会議読書部会における主なご意見とその対応について

日 時 令和2年8月28日(金) 14時～15時半

会 場 大阪府新別館北館 会議室兼防災活動スペース5

出席者 大平委員、森本委員、永島委員

	主なご意見	対応(案)
①	読書とは、どういった活動なのか。 一冊の物語を読むことが読書だと子どもが考えていないか。 例えば、調べるために本を活用することも、インターネットで活字を読むことも読書ではないか。 特にコロナがあり、紙の本を手に入れることが難しい状況で、インターネットも含めて、読書の定義を少し広げて考えてもいいのではないか。子どもに1冊すべて読まなくてもいいと伝えれば、読書に対するハードルも下がるのではないか。	第4次計画では「読書活動の位置づけ」を設けて、読書の定義を掲げる。
②	子どもは読書が嫌いなわけではなく、楽しいとか面白いということを知らないだけではないか。 調査に読書好きの項目があるが、読書好きが本を読むとは限らない。 次期計画では、読書好きな子どもの割合を増やすのか、読書をする子どもの割合を増やすのか、どちらを目標において進めていくのか。	第4次計画では、時間がない、読みたい本がないなど様々な理由により本を読まない子どもを減らすことを目標とする。 また、読書の楽しさを知らない子どもに焦点を当てた計画策定を行う。
③	読書というものを難しく考えず、例えば本を読んでクイズを作ってみるなど、とっかかりやすいものから始めてもらうことができるような読書活動普及・啓発などできないか。	第3次計画に引き続き、民間の書店組合や出版協会等で構成される OSAKA PAGE ONE 幹事会と一緒にオーサービジット事業等を通じて読書活動の普及・啓発を進めていく。 また、インターネットを活用した施策を含め、様々なツールを活用した取組みを検討する。
④	インターネットを活用した読書活動を進める際には、環境を整えるだけでなく、インターネットによる正しい読書活動の方法を、案内役となる大人から子どもに伝えるようなことを考えていけたら良いと思う。	子どもにとって身近な大人が、時間が無く忙しいという状況を踏まえ、効果的な手法を検討する。
⑤	電子書籍について、乳幼児期からの絵本の読み聞かせでは、紙と電子では意味合いが異なってくる。また、高校生では、幅広く様々な本を読むようになり、電子書籍でも紙と同じように様々なジャンルの本を読むことができる環境が求められる。このため、ひとまとめに電子書籍を議論するのは難しいのではないかと考える。	電子書籍が普及すれば、自宅で今までと同様に読書ができるようになり、便利で読書活動の充実が期待できる。 一方で、電子書籍のコンテンツは紙の本と比較して数が少なく途上段階などの課題もある。 紙の本と合わせて読書活動の選択肢の一つとして活用の検討を進めたいと考えている。